

令和6年度第3回愛荘町子ども・子育て会議 議事録

日時	令和6年10月22日（火） 10時00分～11時10分
場所	愛荘町役場庁舎別館 多目的ホール
出席者	烏野委員 大辻委員 中西委員 國領委員 富田委員 福田委員 槇原委員 中村委員 馬場委員 事務局：教育振興課 久保川課長補佐 子ども支援課 増居課長、森野課長補佐
欠席者	加藤委員 奥村委員 豊満委員 森委員 木村委員 濱田委員
協議事項	(1) こども計画（素案）について
資料	・ 令和6年度第3回愛荘町子ども・子育て会議次第 ・ 令和6年度愛荘町子ども・子育て会議委員名簿 ・ 愛荘町子ども・子育て会議条例 ・ こども計画について 【資料1】
傍聴者	0名

<増居課長>

定刻になりましたので、令和6年度第3回愛荘町子ども・子育て会議を開催します。子ども支援課長の増居です。よろしくお願いします。

<事務局>

はじめに、愛荘町子ども・子育て会議の烏野会長からご挨拶いただきます。

<烏野会長>

本日はこども計画の素案について、事務局よりご説明をいただき、最終的な協議をしていただいたあと、承認をいただきたいと思います。だいたい1時間くらいで終わるのではと思っていますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

<事務局>

資料の確認をさせていただきます。事前送付資料は、次第、委員名簿、愛荘町子ども・子育て会議条例、資料1「愛荘町こども計画【素案】」、ご意見シートとなっています。

本日欠席のご報告を賜っているのは、森委員、豊満委員、奥村委員、木村委員、加藤委員が欠席です。濱田委員もまだお見えになっておられませんが、15名中9名の出席となっていますので委員の半数以上のご出席をいただいています。愛荘町子ども・子育て会議条例第5条第2項の規定に基づき、本会議が成立することをご報告します。

愛荘町附属機関等の会議の公開等に関する要綱に基づき、政策形成過程の透明性の向上と公正の確保を図るため、本会議も公開することとなっています。また、会議録署名人を委員の中からお願いすることとなり、烏野会長と國領委員にお願いしたいと思っております。会議の記録を事務局で作成し完成しましたら、後日送付させていただきますので、よろしく申し上げます。ご確認及びご署名をお願いします。

本日の会議も、第3期子ども・子育て支援事業計画の策定等の支援をお願いしている（株）ジャパンインターナショナル総合研究所の伊藤様にもご同席いただいております。本日、事務局の教育次長の陌間が欠席しておりますので、教育振興課より久保川課長補佐に出席いただいております。これからの議事は、子ども・子育て会議条例第5条第1項の規定により会長が議長となるとあることから、烏野会長に進行をお願いします。

<烏野会長>

それでは、資料1「愛荘町こども計画【素案】」について事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料1「愛荘町こども計画【素案】」に基づき説明

<烏野会長>

今回の計画は、令和11年までの5年間の計画となります。5年も経てば、我々委員も子どもたちも、みんなステージが変わっていると思いますし、先が見づらい時代ではあると思いますが、愛荘町の5年間の目標や基本理念など、目指したいことはこれでいいのかどうか、表現の仕方など細かい部分についても委員の皆さんいかがでしょうか。私が感じたのは、子どもは昔「子供」と漢字で書いていたのが、「子ども」に変わり、今回は全てひらがなで「こども」に変わっていて、そのような表現の変化もあるのだということです。

P38の計画の方向性について、委員の皆さんから、子どもや親、地域が育つというよりも、こどもも親も地域も輝いていこうというご意見をいただいたので、そのご意見を取り入れています。それ以外のところについても、ご意見をいただければと思います。こども誰でも通園制度は、2年後からは働いているかどうかの縛りがなくなって、誰でも子どもを預けられるようになりますし、5年の間には大きく制度や政策など変わっていくと思います。夫婦別姓も当たり前になっているかもしれないし、家族という形も変わってきたりいろいろと動く5年間になると思います。

<事務局>

こども誰でも通園制度は、令和8年4月から全国で実施するように国は言っていますが、今の段階で試行的に実施している自治体もあります。滋賀県内では米原市で実施していますが、愛荘町では令和8年からの実施予定です。その件については、P43の1-⑤の最後に少し記載していますが、まずこども誰でも通園制度は正式名称として「乳児等通園支援事業」になります。事業の内容としては、保育園等に預けていないご家庭のお子様を、月に一定時間、まだ正確に時間は決まっていますが、事前に予約をしていただき預けられる制度となります。このような事業は、実際始めてみないと需要がどれくらいあるかはわかりませんが、お子さんを集団生活に慣れさせたり、親御さんの育児のストレスを軽減させたりできるよう、国が設計している制度になります。愛荘町では今年度、来年度で検討していきますので、この会議でもご意見をいただければと思います。また、P43の2-①に記載していますが、こども家庭センターについても、令和7年4月から開設する予定となっていて、今までの子育て世代包括支援センターとか、こども家庭総合支援拠点と併せて、一体的に事業展開をしていくことを検討しています。実際に動かしながら、どのような形がいいのかを考えていきたいと思っています。

<榎原委員>

時代の流れとともに、生きにくくなっていると感じますが、こんなに町でも社会でもいろいろと取り組んでいるのにそう感じるのは、ネット社会になって人の言葉を気にしながら生きなければいけないからではないかと思います。私は、秦荘東小の近くに住んでいますが、通学する小学生のお子さんに会うときに思うのが、以前住んでいた長野県では、今は知らない人とは話さないという時代ですが、子どもたちが地域の人に挨拶しようという運動があって、子どもたちは知らない人にも挨拶をしていて、それだけでも地域は変わってくるなと感じていました。会議に参加して自分には何が

できるのだろうと、何かお役に立てることはないだろうかと考えています。今はネット社会で、小さいお子さんもネットを使っていると思います。その中で、危険なことがあったり、落ち込んだり、元気をなくしたりする子どもたちに、何か大人として社会としてできることはないだろうかと考えています。

<烏野会長>

18～20ページを見ますと、小学生も中学生も若者も「今の生活に満足している」人の割合がとても高く、制度的に昔に比べたら子育てはとてもやりやすくなっていて、国の施策も充実していると思います。それは、飛行機に乗らないのに機内サービスばかりが充実しているようなもので、子育ての手当てなどとても気を使いながらやっているのに、子どもが少ないし、産まないし、結婚しないのは、政治が原因かもしれないと感じています。

<福田委員>

うちは1年生、3年生、6年生の3人の子どもがいますが、自分が子どもの頃は、習い事の行き帰りは遅くなくても自転車で行っていましたが、今は親が車で送り迎えするのが普通ですし、雨の日に友だちと遊ぶときも送り迎えです。家で料理をしようと誘ってもなかなかスイッチが入らないので、そういうこともしませんし、結局親がしてしまうことが多いような気がしています。マラソン大会も、昔は農家をされている親くらいしか見に来ていませんでしたが、今はお父さんも有給を取って夫婦揃って応援に来たり、時代の流れなのかなとは思っています。

<馬場委員>

「今の生活に満足している」割合が高いということでは、昔に比べて体制的に子育てがしやすくなっていると言われてはいますが、やはり現場のお母さんはどの時代も大変だと思います。ただ、今は不登校になっても人権が守られていると感じますし、社会全体が行かないことが悪いことではないという考えになっていたり、体制的に守られていると感じます。

<大辻副会長>

昔より今のほうが子育てしやすくなったということに引っ掛かっています。私は子どもがもう41歳と29歳です。子育て中はフルタイム勤務でしたが、特に子育てをがんばってはいませんでした。それは、祖父母が力を貸してくれて、地域のつながりの中

で他のお母さんたちと悩みを共有できて、話すことで安心できていたからだと思います。それに比べたら今のお母さんたちはいろいろなものを背負っていて、きついだろうと感ずます。基本理念に「子どもが、親が、地域が輝く」という言葉を入れてもらっていますが、子どもたちが将来に夢を持つためには、家庭や学校や地域でわくわくできる体験ができることが大切だと思いますので、「輝く」という言葉はとてもいいと思います。そのためには、もっと地域との関わりを仕組みでいかなければいけないと思います。17ページの保護者アンケートの中で、「緊急時や用事の際に子どもを見てもらえる親族や友人・知人がいずれもない」という回答者は、前回調査より増えています。もう少し、地域が手を差し伸べられる状態になればと思います。近所に、ブラジル籍の家族の方が家を建てて引っ越して来られたのですが、小さいお子さんがいて関わりと喜んで接してくれます。お子さんが病気になったときや困ったときに、近所で預かってあげられる仕組みが推進できていくと、地域とのつながりもできていいと思います。病児病後児保育とかファミリーサポートは、敷居が高くて預けにくいのではないかと思います。私の子どもが大阪と東京で子育てしていますが、困ったときすぐに行けないので、近所の顔見知りのおばちゃんが地域で助けてくれる体制ができるといいなと思います。

<富田委員>

18～20ページのアンケートで、「家族に大事にされていると思う」の割合が高いということでしたが、私は「自分は価値のある人間だと思う」がもっと増えないといけないと思います。こどもまんなか社会ということですが、結局はそれも大人目線、大人都合だと感ずますし、学童の子どもたちを見ていると自己肯定感が低い子どもが多く、子どもの幸福度も日本は低いです。そこを上げていかないと、何の意味もないと思っています。「自分のことが好き」という子どもを育てていきたいと思っていますが、令和8年からのこども誰でも通園制度も、国のやり方は子どもと親を離しているように感ずます。昔は子どもと親の時間があつたと思いますが、今は家庭の時間も地域のつながりもなくなつてきているので、そこを大事にしていきたいです。

<烏野会長>

また5年経つと、世の中の考え方もガラリと変わつて来ると感ずます。これまでは、地域のわずらわしさを解消するために、いろいろな法制度ができて来ましたが、地域で子どもを預けられるといいのですが、何かあつたときに誰が責任を取るのかという問題もありますし、地域には干渉されたくない、SNSでつながっている友だちのほうがいい、

地域の必要なことは税金を払うから行政が法制度でやってほしいなどの声も一方ではあります。

<國領委員>

「輝く」という言葉について思うのは、子どもをステージに上げて、スポットライトを当てて輝かすのではなく、子どもたちは一人ひとりが隣の人とは違う光を自分から出せる力を持っていると思います。それは、周りで見守っている大人も一緒に、一人ひとり色は違うので、自分を出しながらみんなが輝いてほしいです。こどもまんなか社会というのは、大人が円陣を組んで、その真ん中に子どもがいるのではなく、子どもがいろいろなところにバラバラにいても、そばに大人がいて寄り添って見守っている社会であってほしいですし、子どもも、大人も、地域も、それぞれのよさを自分で光らせて、輝けるまちであってほしいと思います。

地域のつながりという点でいくと、P10の世帯数の状況にあるように、国や滋賀県よりも3世代世帯が多いというのが愛荘町の特色ですが、世帯数の状況の推移にあるように、愛荘町も単身世帯が増えて、核家族世帯や3世代世帯が増えて、国や滋賀県の傾向に近付いているということも考えていかなければと思います。単身世帯というのは、若い方もそうですが、高齢の方の独居という単身世帯もあると思いますので、だからこそつながりを意識して、大事にしなければいけないと思います。

保育園として、しんどさを抱えている保護者さんに寄り添いながら、いろいろな関係機関ともつながり、親同士もつながり自信を持ってがんばってもらいたいと思います。こども誰でも通園制度やこども家庭センターなどの行政の機関が、いかに連携するかによって、保護者同士が繋がったり、専門機関が力を発揮したりしますし、それによって子どもも親も地域も輝くような施策を進めていただければと思います。

<烏野会長>

学生に結婚したあと親と同居するのはどうかと聞くと、学年が上がるほど「絶対いや」と言いますし、結婚することに対するメリットもないからしないという人も増えています。3世代で同居しているのは、本当にイレギュラーなことだと思います。5年後にそのまた5年先を見据えた計画を立てますが、社会や行政がどのように支えていくのだろうなと思いながら聞いていました。

<大辻副会長>

姑の立場でも同居はいやです。近くにいて、何かあったときに頼れる存在というのが必要だと思います。

<烏野会長>

将来、愛荘町に帰ってきたいというデータもありますし、それはすごいと思います。

<事務局>

愛荘町で多いのは、同居ではなく同じ敷地内に家を建てたり、字は違うけど近くに家を建てたりという世帯です。つかず離れずくらいの距離がいいのかなと思います。

<烏野会長>

祖父母に資金力があってしっかりしていれば、孫も見てもらえて理想だと思います。子どもが熱を出したら祖父母が迎えに来てくれたり、何かあったときには車を出してくれたり、野菜も持って来てくれたり、それは理想だけどそうでなければ大変だと思います。

<大辻副会長>

自分の孫でなくても面倒が見られるというつながりができると、すごくいいと思います。

<榎原委員>

以前、子どもが何か危険を感じたときに入っていいおうちの看板があったと思いますが、これは愛荘町にもあるのですか。

<事務局>

こども110番のおうちは、今もやっています。黄色の三角コーンと看板で、カエルの絵が描いてあります。

<榎原委員>

見たことがないです。

<大辻副会長>

廃れてはきています。

<事務局>

お店にもあります。

<大辻副会長>

私たち世代の高齢者人材を活用できるような、何か仕組みがあればと思います。先日、叔母の家に行ったときに、小学生が下校中だったのですが、「あれっ！この人知ってる！月のくまさんや！何でここにいるん？」と言ってくれた子がいました。その小学校には月に1回、10分程度読み聞かせに行っているだけですが、知ってくれていてうれしかったですし、叔母も小学生の登下校の時間には外に出て様子を見ているそうで、そういうつながりがあると子どもたちも安心するだろうと感じました。

<榎原委員>

うちはヤギを飼っていますので、それを目当てに子どもや小さいお子さん連れのお母さんなどが声をかけてくれたりするので、そういう場所でありたいなと思います。

<大辻副会長>

助けるとか助けてもらうとなると少し大変になりますが、顔を見たら安心できるような関係性が増えるといいなと思います。

<福田委員>

子どもの数が減って帰り道が一人になる子もいますので、地域の人たちに声をかけてもらえたらありがたいです。それから、今の子どもたちはコロナでいろいろな行事が経験できていません。小6の子は、運動会でお弁当を食べたのは1回だけですし、キャンプもなくなって、今も日帰りになっています。もっといろいろなことを経験させてあげたいと思います。

<中村委員>

実家は自分の弟が敷地内同居をしていますが、お嫁さんの親が亡くなってしばらくお嫁さんが実家に帰っていたとき、小学生の孫たちが自分で支度をして登校しているのを見ても、頼まれていないとおせっかいができなかったそうで、お嫁さんも迷惑は

かけられないと思っているかもしれませんが、今の社会の生きにくさみたいなものを感じました。逆に子どもが育っていくのにはそういう環境も大事だと思います。私は仕事で子どもと接することがありますが、小中学生は親御さんの送迎が当たり前になっていて、何時間もお迎えを待っているのを見ると、高学年、中学生だと自分で帰ったらと言いきなってしまいます。でも、防犯のことや、家に帰っても誰もいないなど、その家庭ではそれが最善の方法だと思え言えないです。自分たちのときは、雨が降っても暗くなっても自分でなんとか行って帰って、それが経験になって子どもを成長させていたと思いますが、そういう場が減っているのが事実だと思います。それが、子どもたちが大きくなったときにどう影響するだろうかといつも思います。素案は、見やすくなっていると思いますが、章ごとの横のつながりがわかりづらいです。例えば、確保の方策が、どこのことを言っているのか探るのが大変なので、横のつながりが見えてくるともっとよくなると思います。

<烏野会長>

ダイジェスト版やチラシはつくるのですか。

<事務局>

見やすい概要版をつかって、全戸配布をする予定です。

<烏野会長>

次回の会議が12月となると、そこで確定することになりますか。

<事務局>

素案の確定となります。それをもってパブリックコメントを行います。

<烏野会長>

12月の会議まで時間がありますので、改めて読んでいただきながら、昔はこうだったとか、今はこうだろうとか、3世代世帯が多いというのはいいところですし、もっと愛荘町独自の意見を出してもいいと思います。次回の会議で確定しますので、またご意見をいただければと思います。協議事項のほうはこれで終わりたいと思います。それでは事務局へバトンタッチしたいと思います。

<事務局>

ご意見があれば、次回の会議のときでも結構ですが、事前にいただけると盛り込むことができるのでよろしくお願いいたします。本日の会議はこれで終了したいと思いますので、最後に大辻副会長からご挨拶をいただければと思います。

<大辻副会長>

今日は、それぞれの立場からのご意見が聞けてすごくよかったと思います。こどもまんなかということで、子どもの気持ちはどうかということを考えないといけないということに気付かせていただきました。皆さん、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。

<事務局>

今回は12月頃を予定しておりまして、素案の最終案を検討していただき、会議後パブリックコメントを実施したいと思います。日程につきましては、調整後にご案内させていただきます。本日、14時50分から役場庁舎前で、児童虐待防止キャラバン隊によるメッセージの伝達式を開催させていただきますので、時間があれば見に来ていただければと思います。本日はありがとうございました。お気を付けてお帰りください。

(11時10分 閉会)